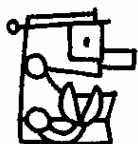


小 / 理科 / 6年 / 地球と宇宙 /
大地のしくみ / 理解シート

火山ふん出物って、なんなの



火山のふん火で、地下からふき出されてくる、よう岩、
火山ガス、^{かざんばい}火山灰、^{かざんだん}火山弾などのことさ。

おもな火山ふん出物は、よう岩と火山ガス、火山灰

地下深い所にある、熱いマグマ（高温でどろどろにとけた岩石）が、火山のふん火で、火口から地表に、^{きゅうげき}急激にふき出したり流れ出したりしてきたものを、火山ふん出物といいます。

マグマが地表に流れ出て、およそ600 ぐらいまで冷えると、固まってきます。これがよう岩ですが、岩石の分類では、火成岩とよびます。種類はいろいろあり、代表的なものが、かこう岩や安山岩などです。

マグマの中には、水蒸気をはじめとして、二酸化炭素や一酸化炭素、二酸化硫黄^{いおう}などの気体がふくまれています。これらがふき出してくるのが、火山ガスです。硫黄成分のガスは、毒性が強いので、植物はかれ、動物も死んでしまいます。

火山灰や、^{かざんさ}火山砂は、つぶの角がとがっている

ふん火のとき、火口近くの岩石やよう岩が、こなごなになってふき飛ばされると、大きめのは火山れき、1～4mm ぐらいのものは火山砂、1mm 以下のものは火山灰とよばれます。

火山灰や火山砂を、何回も水をとりにかえてよくあらい、けんび鏡で観察してみましよう。川などで見られる^{すな}砂とはちがって、角がとがったものが多く、火山ガスが飛び出したあとの、小さいあながあいたものなどが見つかります。すき通ったガラスのようなつぶが多いのも、火山ふん出物の特ちょうです。

マグマが空中に飛ばされて、球形やぼうすい形に固まったものは、火山弾とよばれています。